

旧市役所庁舎跡地利活用の検討状況について

1 これまでの検討経過について

- 平成 28(2016)年度** 人口や産業、土地利用の動向など、検討に必要な基礎調査を実施
- 平成 29(2017)年度** 周辺町内会、商店街参加のワークショップを開催（全4回）
関係団体、行政内部の意向調査を実施
- 平成 30(2018)年度** 跡地利活用の方向性(にぎわい創出の場)、手法(民間活力の活用)、
次年度以降の検討スケジュールを決定
国・県への利活用意向調査、旧庁舎周辺の若者・女性へのアンケート
調査を実施
- 令和元(2019)年度** 民間単独での利活用の可能性調査(サウンディング、ヒアリング)を
実施。検討方針を「市の公共施設を取り入れた利活用」に変更
- 令和2(2020)年度** 跡地の活用コンセプト及び公共施設候補を決定。改めてサウンディン
グを実施し、民間参入の可能性あることを確認。ただし、建設費や
施設運営に係る管理費は、市が負担するサービス購入型が条件。
- 令和3(2021)年度** 概ねの施設規模・機能で、簡易VFMを算出。PFI事業が従来手法より
約6%の事業費削減が見込まれる結果となった。市内部で組織する
PFI導入検討会議及び庁議を経て、詳細VFMの検討に進むことを決
定。10月25日の産業建設常任委員協議会にて報告。
現在、詳細VFM算出のための施設規模等を検討中。

2 施設規模の検討状況

(※現時点で想定している規模であり、今後変更の可能性あり)

(1) 中央地区コミュニティセンター(約1,350㎡:現中央コミセン床面積から2割削減)

- ・コミセンの専門室は現状維持を基本とし、利用率が低い機能は廃止

(2) 屋根付き多目的広場(約2,500㎡:夕陽のドームの約2倍の広さ)

○子どもの遊び場(市民の健康増進の場)として整備し、スポーツやイベントもできる
空間とする

- ・子どもの常時遊びスペース(人工芝、ふわふわドームなどを設置)
- ・芝生広場(人工芝、フットサルコート2面分の広さ)
- ・陸上トラック(ゴム系舗装、70m×4レーン)

(3) (仮称)多世代交流センター (約 800 m²、名称を「共用棟」から変更)

○若者をはじめ、多世代が集まれるにぎやかな空間として整備する

- ・室内交流広場 (フードコートのような空間。カフェなど民間施設スペースを想定)
- ・付加機能を持った多用途に対応できる部屋 (多目的室(防音・防振室)、スタジオ(防音・映像)、展示室)を設け、中央地区内・外の市民利用を想定する。
- ・更衣室、シャワー室、防災備蓄倉庫など

(4) その他

- ・駐車場 約 200 台

3 検討スケジュール

- ・サウンディングに参加した民間事業者にヒアリングを行い、民間が参入する可能性を確認しながら、施設の規模や運用方法を検討しており、詳細 VFM の算定は6月頃になる見込み
- ・詳細 VFM の結果を踏まえ、次年度前半に PFI 導入検討会議に付議し、庁議で事業手法を決定する予定

以上